

OS交配

●ハウス●1月~4月播き 越冬後作・雨除け栽培 ● 5月~7月播き 抑制



# 夏なつさい 彩

キュウリ

707号

●ウドンコ病・褐斑病の双方に耐病性 ベト病にも強い●

## 複合耐病性



高品質かつ多収性  
肥大良く、流れ果少ない  
果形の安定性高い



株式会社 埼玉原種育成会



## 特性と栽培のポイント

## 特性

- ウドンコ病と褐斑病の双方に耐病性 ベト病にも強い。
- 分枝性は程良くオーソドックスな摘芯仕立に対応。

適作型 と 雌花率	ハウス:1月~4月播き 越冬後作・雨除け栽培 5月~7月播き 抑制栽培 主枝雌花率:1月~4月 70%~80% 5月~7月 40%~50% 1節1~2果成り 側枝以降 近成り	主茎 側枝	太く、節間は中節間で発生は良い 孫枝以降も側枝の肥大を伴い確実に発生
		葉	やや濃緑色で大きさは中位、 受光性良好展開
草勢	分枝性は程良く、孫枝以降は、 中~短節間となり、発生は良い	収量	初期の成り込みが良く、間断なく分枝し、 肥大性が良いため長期に亘り 秀品多収を示す
果実	100g果で21cm中心 首から尻部まで良く整った円筒形で 果揃い良好、果形の乱れも少なく安定する	耐病性	ウドンコ病と褐斑病の双方に耐病性 ベト病にも強い

## 栽培のポイント

※摘芯栽培を基本とし、孫枝以降短節間の場合は、半放任とし、長節間では摘芯を基本とする。

## 定植と植付本数

害虫防除のために、植付前にポットへの薬剤処理をしておく。葉面散布や発根促進剤等でドブ漬けをし、地温16℃以上保つ条件で定植すると良い。植付本数は、株間80cm~100cmで約800株を目安とする。

## 施肥

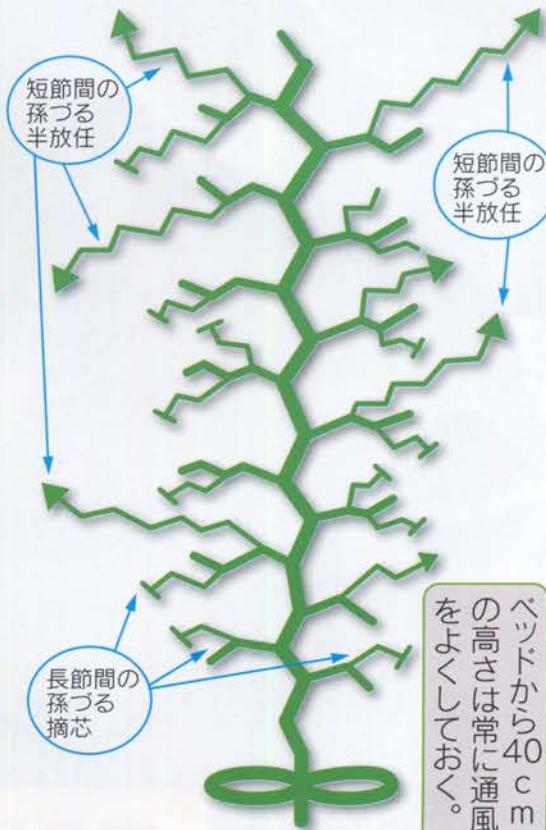
初期の低地温での肥効をよくするために、早くから堆肥や有機質肥料を中心に広く深くにまで施しておくと良い。通常N20kg,P25kg,K20kg位だが前作、肥料の種類、地力により増減する。追肥は梅雨時期にかかり、根は浅根となり易いので少量ずつ多回数が良い。

## 灌水と排水

定植後の根付き水や薄めの液肥かん水等でしっかりと樹作り。  
日射量に応じて灌水すると効果が高い。  
排水対策をしっかりし、酸素供給剤等を施用すると効果高い。

## 摘葉及び整枝法

地上40cm以下の脇芽・雌花を早めに摘除する。  
孫枝以降は草勢維持のため一時的に伸ばしても、いずれ摘芯する。  
常に全体に亘り収穫果が見え隠れする程度が良く、一回あたり2~3枚を限度で摘葉する。  
遅まき程、収穫が始まったら機械的な摘芯はせず、草勢を判断して行う。



「夏彩(なつさい)」の最適台木品種

- ブルームレス台木／OS交配 ゆうゆう一輝(黒タイプ)・オールスター一輝・FGY・RK-3
- ブルーム台木／OS交配 ウルトラ南瓜・ウルトラ9B南瓜



きゅうり・かぼちゃ・メロン 育成元

株式会社 埼玉原種育成会  
〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀2616  
TEL.0480(85)0854(代) FAX.0480(85)0407



OS交配種子 発売元  
株式会社シード

〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀2616  
TEL.0480(85)7211(代) FAX.0480(85)0407